

## 取付説明書

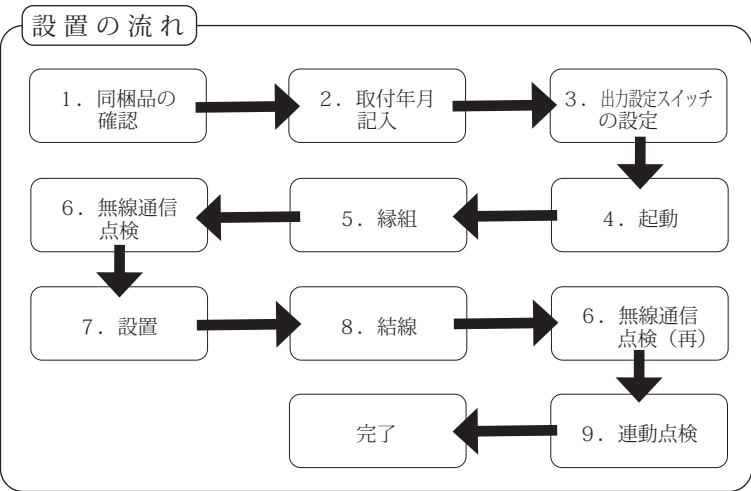
YAZAKI

施工される方へ

機器運動型無線ユニット (YSC-29A)  
ガス漏れ無線ユニット (YSC-29B)

本書の構成は、表面の設置ガイドと裏面の補足ガイドの二部構成となっています。表面の設置ガイドをお読みいただければ、基本的な設置については行うことができます。その他、機器の詳細や運用形態別の接続方法等については、裏面の補足ガイドをご覧ください。

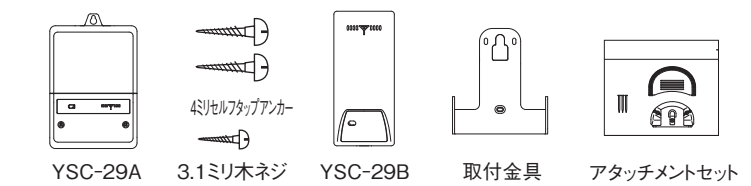
## 設置ガイド



## 1. 同梱品の確認

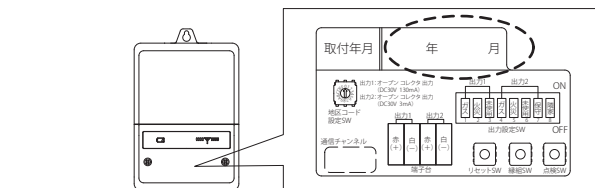
下表に基づき、部品の種類・数量を確認してください。

部品	補足	YSC-29A YSC-29B セット品	YSC-29A 単体品
YSC-29A		1	1
4ミリセルフタッパンカー	YSC-29A 固定用	2	2
取扱説明書	YSC-29A 保証書付	1	1
取付説明書	本書	外装箱に1	外装箱に1
YSC-29B		1	—
取付金具	YSC-29B 固定用	1	—
3.1ミリ木ネジ	取付金具固定用(木材壁)	1	—
アタッチメントセット	取付金具固定用(石こうボード)	1	—
保証書	YSC-29B 用	1	—

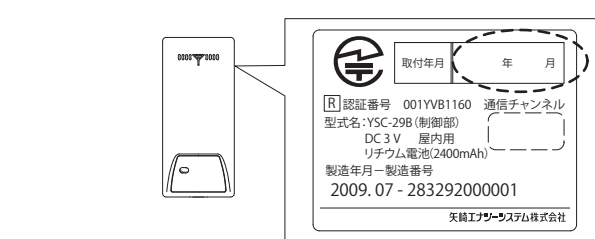


## 2. 取付年月の記入

YSC-29A 端子カバーの内側に、取付年月を記入してください。



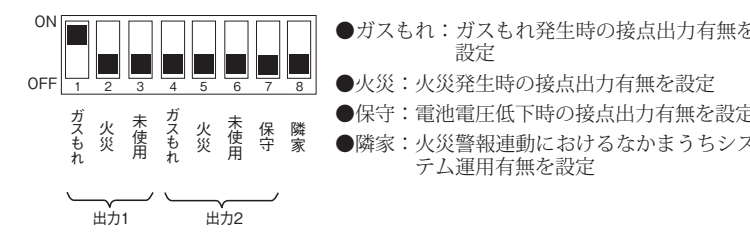
YSC-29B 背面の製造ラベルに、取付年月を記入してください。



## 3. 出力設定スイッチの設定 (YSC-29Aのみ)

出力設定スイッチにより、発生事象に応じた a 接点出力信号の有無を設定することができます。

<出荷状態のスイッチ設定>

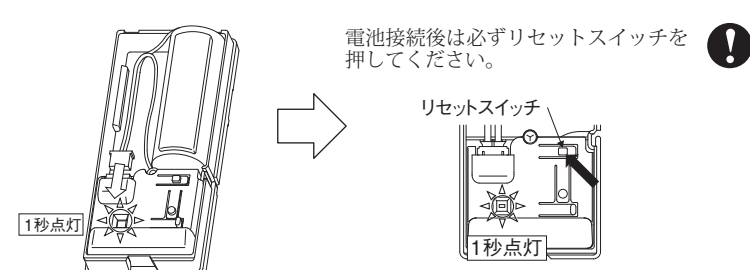
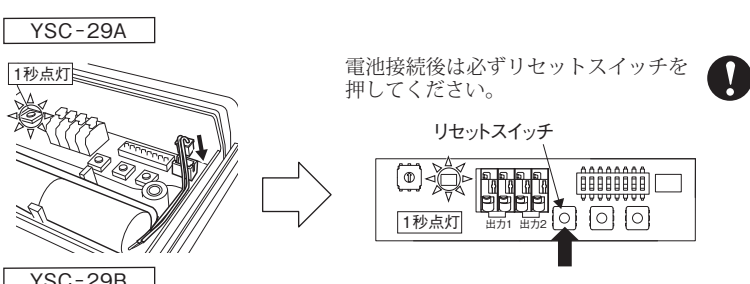


## △注意

- 起動後に出力設定スイッチを変更した場合は、必ずリセットスイッチを押してください。リセットスイッチを押すことにより、設定が有効となります。保守スイッチを ON にすると、出力2は保守専用出力となります。この場合、スイッチの設定に関わらず、ガスもれや火災の出力が行われません。なまかうちシステムは火災連動のみ有効であり、ガスもれには適用されません。自宅のガス漏れ警報器が鳴って、マイコンガスメータが遮断しても、隣家のマイコンガスメータを遮断することはありません。

## 4. 起動

電池を接続して、電源を投入します。



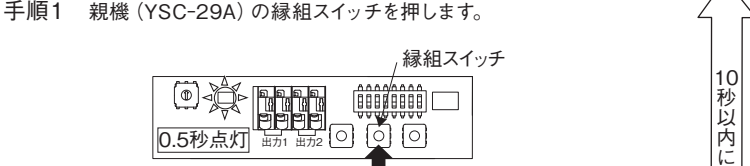
## 5. 緑組

緑組の前に確認すること

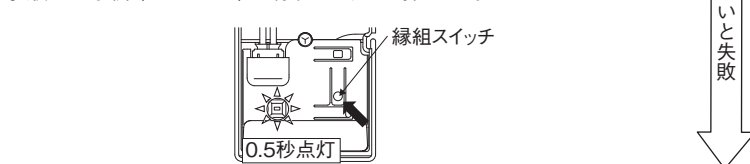
- 近隣で無線システムが使用されている場合には、裏面の補足ガイド「4. 通信チャンネルの設定」に基づき通信チャンネルを変更してください。
- なまかうちシステムを使用する場合には、裏面の補足ガイド「5. 地区コードの設定」に基づき、地区コードの設定をしてください。
- 緑組のパターンによっては、YSC-29Aを子機に設定して緑組する必要があります。裏面の補足ガイド「6. 緑組パターン」を確認してください。

ガスもれ警報連動遮断を行う場合の緑組例

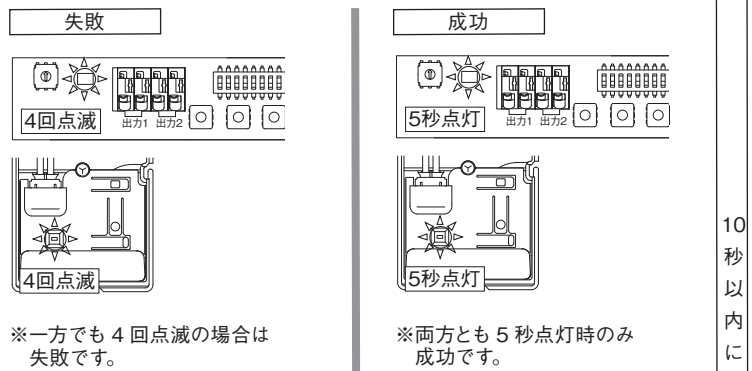
手順1 親機 (YSC-29A) の緑組スイッチを押します。



手順2 子機 (YSC-29B) の緑組スイッチを押します。



手順3 結果を確認します。

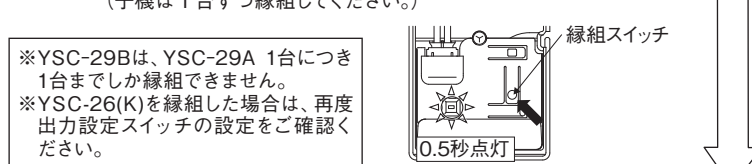


※一方でも4回点滅の場合は失敗です。

※両方とも5秒点灯時のみ成功です。

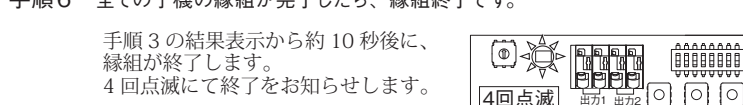
- 親機の緑組スイッチを押してから10秒以上経過していませんか?
  - 地区コード設定スイッチが1~D以外になっていませんか?
  - 親機同士、子機同士で緑組しようとしていませんか?
- 手順1 からやり直してください。

手順4 次に緑組したい子機 YSC-26(K) の緑組スイッチを押します。(子機は1台ずつ緑組してください。)



手順5 手順3⇒手順4を繰り返します。

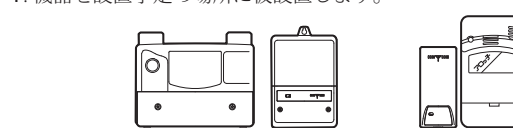
手順6 全ての子機の緑組が完了したら、緑組終了です。



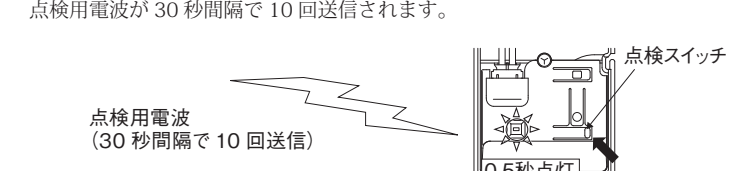
## 6. 無線通信点検

無線通信が正常に行われるかどうかを確認してください。以下、ガスもれ警報連動遮断システムを例として説明しますが、火災警報連動遮断システムの場合も同様です。YSC-29BをYSC-26(O)(K)と読み替えてください。

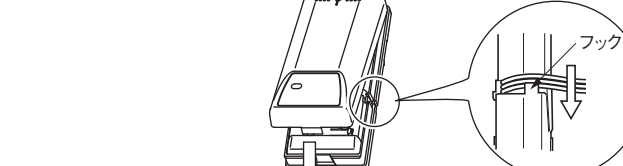
1. 機器を設置予定の場所に仮設置します。



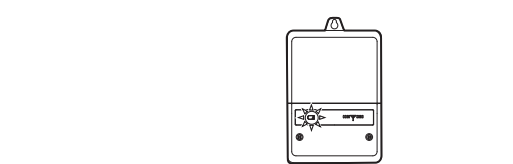
2. YSC-29Bの点検スイッチを押してください。点検用電波が30秒間隔で10回送信されます。



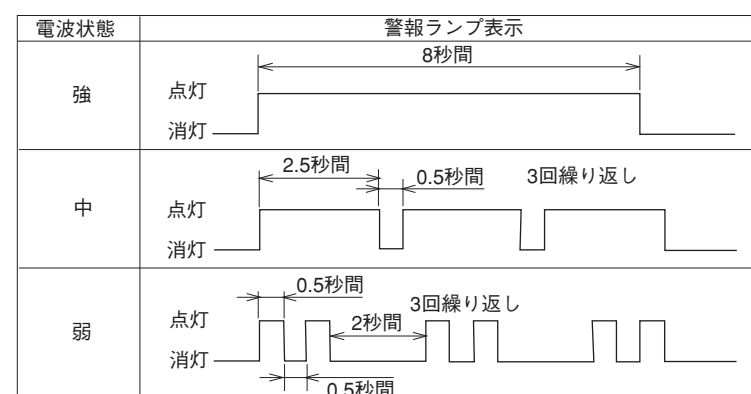
3. ケースを閉じてください。警報器接続用ケーブルを、下ケースのフックに引っ掛けた状態で、ケースを閉じてください。



4. YSC-29Aの警報ランプ表示を確認します。



電波の強さに応じて、強・中・弱の三段階の表示を行います。(下表参照) YSC-29Bから送信される点検用電波に呼応して、30秒間隔で10回表示を繰り返します。



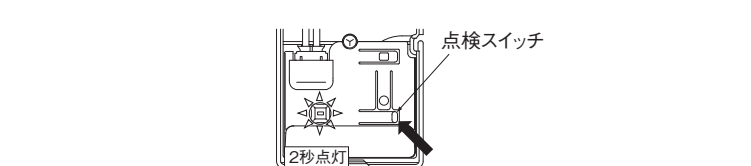
※点検用電波を受信できなかった場合には、表示が何も行われません。※送信用のYSC-29Bの表示は行われません。※緑組を行った無線機全てが表示を行います。確認するのはYSC-29Aのみで結構です。

弱表示や表示が行われない場合には、設置場所を見直しの上、再度無線通信点検を実施してください。

## △注意

- ・本点検は、あくまで無線通信点検時の通信環境における電波状態を示すものです。たとえ、強・中表示であっても、環境などの変化で状況が変わることも考えられます。よって、取扱説明書に基づく日常点検の実施を、お客様に依頼してください。
- ・無線通信点検時、無線機本体に触れたり、無線機間の見通しをさえぎるような位置に立たないでください。正確な点検が行えません。
- ・点検スイッチを押した点検用電波発信元の無線ユニットは、無線通信点検の間、警報連動、緑組、その他動作を行うことができません。必要に応じて、点検スイッチを再度押して、無線通信点検を中止させてください。
- ・結線を含む設置が全て完了した後、再度無線通信点検を実施してください。

5. 無線通信点検の停止  
途中で無線通信点検を停止したい場合には、再度YSC-29Bの点検スイッチを押してください。警報ランプが2秒間点灯し、点検用電波の発信が停止されます。



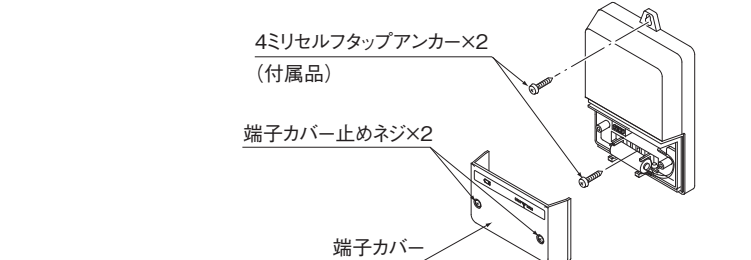
## 7. 設置

YSC-29A

- ・配線用グロメットはあらかじめドライバー等で穴をあけておいてください。
- ・端子カバーはあらかじめ外しておいてください。

木材壁への取付け

付属のセルフタッパンカーで、本体2箇所を固定します。



コンクリート壁への取付け

直接ネジは使えませんので、市販のコールプラグボルトを用いて取付けてください。

- 信号線の延長距離は次の範囲としてください。電線の線径: φ 0.65mm (単線) 延長距離: 30m まで ※強電界地域では、外来ノイズ等の影響を受ける場合があります。配線を極力短くする為の設置位置を選定してください。 ※信号線は電力線から1m以上離してください。
- 凹凸のある壁面へ取り付けられる場合に、下ケースがたわんでいないことを確認してください。ケースに隙間ができ、雨水や虫が入り故障の原因になります。

YSC-29B

木材壁への取付け

1. 付属の木ネジで取付金具を取付けます。



## △注意

- ・取付け強度保持のため、木ネジは根元までねじ込んでください。
- ・万一木ネジがゆるんだ場合には、取付位置を少しずらして取付け直してください。
- ・電池交換、各点検作業が安全に行われる場所に取付けてください。

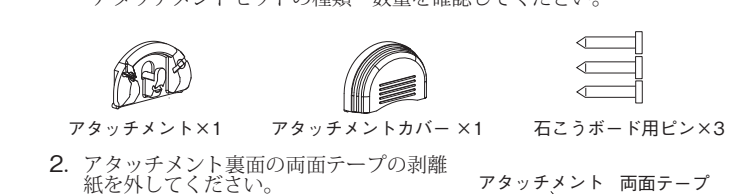
2. YSC-29Bを取付金具に引っ掛けて、下方向に押し込んでください。

- ①取付金具に引っ掛けます。
- ②カチッという感触がするまで、下方向に押し込みます。

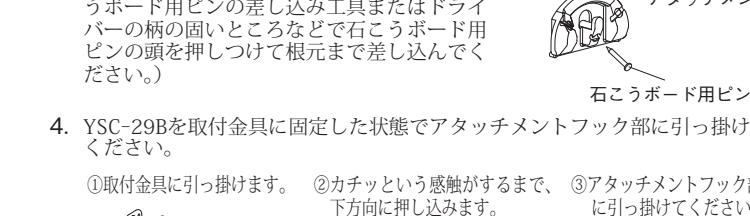


石こうボード壁への取付け

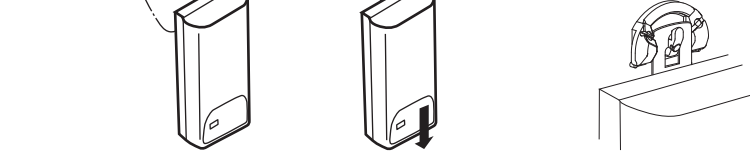
1. 付属品の確認 アタッチメントセットの種類・数量を確認してください。



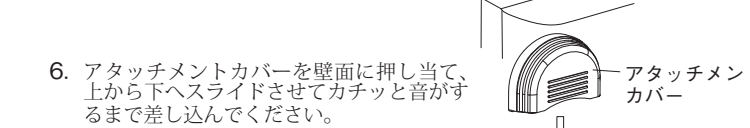
3. 壁面にアタッチメントを押し当て、アタッチメントの中央の穴に石こうボード用ピンを差し込んでください。(その際、市販の石こうボード用ピンの差し込み工具またはドライバーの柄の固いところなどで石こうボード用ピンの頭を押しつけて根元まで差し込んでください。)



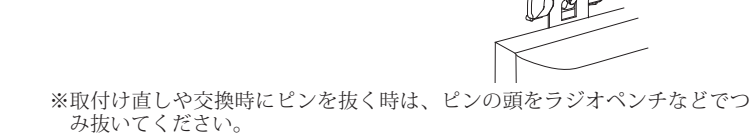
4. YSC-29Bを取付金具に固定した状態でアタッチメントフック部に引っ掛けてください。



5. YSC-29Bが傾かない位置で、アタッチメント左右の穴に石こうボード用ピンを差し込み固定してください。



6. アタッチメントカバーを壁面に押し当て、上から下へスライドさせてカチッと音がするまで差し込んでください。



※取付け直しや交換時にピンを抜く時は、ピンの頭をラジオペンチなどでつまみ抜いてください。

## △注意

- ・ピンを指に刺さないよう取扱いには十分注意願います。
- ・取付強度保持のため、ピンは根元まで差し込んでください。
- ・万一ピンがゆるんだ場合には、取付位置を少しずらしてピンを取付け直してください。

## 8. 結線

### △注意

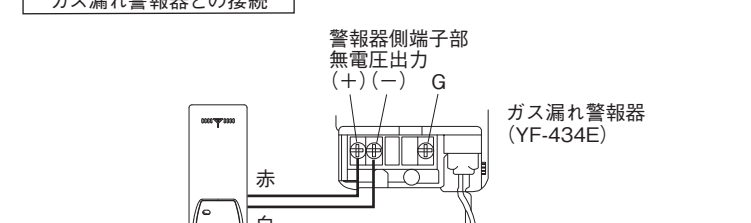
必ずYSC-29Bから結線を行ってください。YSC-29Aから結線すると作業時に遮断する場合があります。

YSC-29B

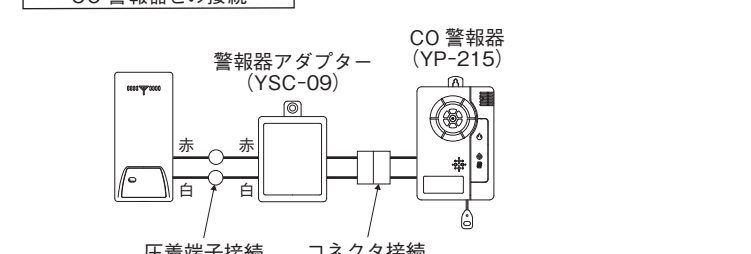
### △警告

- ・感電防止の為、必ず警報器の電源を抜いた状態で作業を行ってください。
- ・全ての接続が完了した後、警報器の電源を投入してください。

ガス漏れ警報器との接続



CO警報器との接続



### △注意

- ・警報器接続用ケーブルには極性がありますので、誤接続しないでください。
- ・警報器との接続線の延長距離は1m以内としてください。
- ・YSC-29BやYSC-09は、警報器のガス検知部から離れないように設置してください。

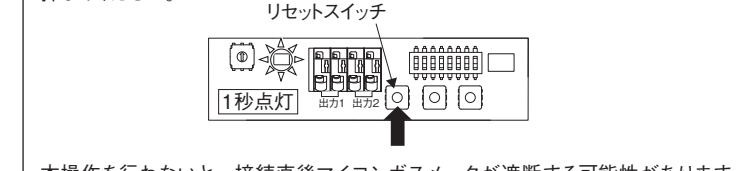
※電源を投入してから、警報器と接続しない状態が10分以上経過すると、故障表示(10秒周期で2回点滅)となりますが、接続後2分程度で消灯します。



YSC-29A

### △注意

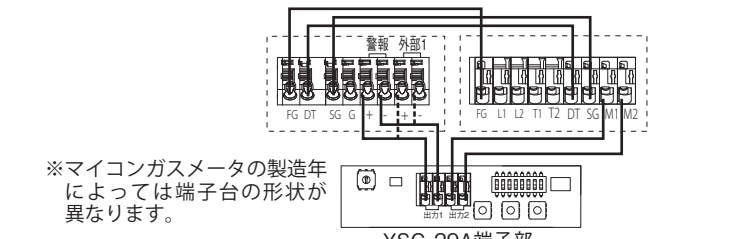
YSC-29Aとマイコンガスメータの結線を行う前に、YSC-29Aのリセットスイッチを押してください。



本操作を行わないと、接続直後マイコンガスメータが遮断する可能性があります。

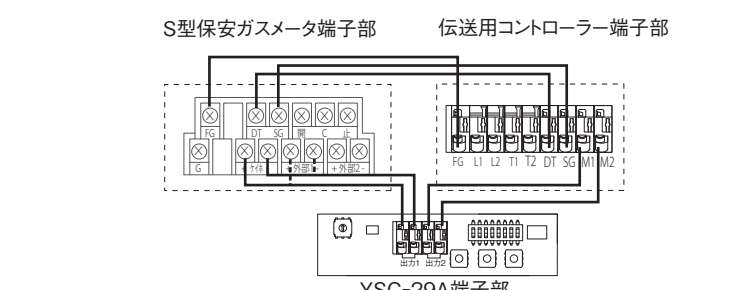
結線図詳細  
ガスもれ警報連動遮断システムを代表例として示します。

< E型保安ガスメータの場合 >



- ・火災設定の出力は、マイコンガスメータの外部1に接続してください。
- ・出力2を保守設定で運用する場合には、伝送用コントローラーの接点ポートに接続し、ON発呼遅延時間無し(即時発呼)に設定してください。

< S型保安ガスメータの場合 >



- ・火災設定の出力は、マイコンガスメータの外部1に接続してください。
- ・出力2を保守設定で運用する場合には、伝送用コントローラーの接点ポートに接続し、ON発呼遅延時間無し(即時発呼)に設定してください。

結線が全て完了したら、再度「6. 無線通信点検」に基づく点検を実施の上、強または中表示であることを確認してください。弱表示や何も表示が行われない場合には、設置場所の変更を行ってください。点検終了後、確実に端子カバーを閉めてください。

### △注意

- ・出力1、2には極性がありますので、誤接続しないでください。
- ・マイコンガスメータ、伝送用コントローラー以外の機器を接続する場合には、下記の接点定格内でご利用ください。出力1: DC30V 130mA 出力2: DC30V 3mA
- ・端子カバーを閉める際は、電池リードのかみ込みに注意してください。

## 9. 連動点検

### △注意

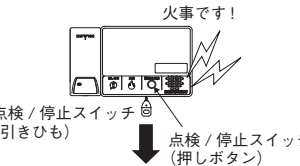
- ・連動点検では大音量の警報音が鳴りますので、事前にご近所の方や、住宅管理者へ周知した上で行ってください。
- ・なまかうちシステムを使用している場合、連動先の火災警報器も音声警報し、マイコンガスメータが遮断します。混乱防止のため、連動先に対して、事前に点検の実施についてご連絡ください。
- ・連動点検によりガスが遮断します。ガスを使用していないことを確認の上、お客様のご了解を得てから点検を実施してください。
- ・ガスコンロ等を点火する場合には、周囲に引火物が無いことを確認してから点火してください。

ガス漏れ警報器での連動点検例

1. ガスコンロ等を点火して、ガスを使用状態にしてください。
2. ガス漏れ警報器の点検操作を行います。40秒以上警報 ビッピビッ状態を維持してください。(詳しくは接続するガス漏れ警報器の取扱説明書をご参照ください。)
3. ガス漏れ警報器が警報を発生してから約1分程度でマイコンガスメータが遮断します。ガスが停止していることを確認してください。
4. ガスコンロ等の器具栓を閉めてください。
5. 警報器が鳴り止んでから5分以上経過後、マイコンガスメータの取扱説明書の手順に従ってガスを復帰させてください。

火災警報器での連動点検

1. ガスコンロ等を点火して、ガスを使用状態にしてください。
2. 火災警報器の点検/停止スイッチ(引きも)を約3秒以上引き、「ビッピ」と音が鳴ったらすぐに離してください。
3. マイコンガスメータが遮断します。ガスが停止していることを確認してください。
4. ガスコンロ等の器具栓を閉めてください。
5. 火災警報器の炎マークの点滅が消えたことを確認してから、マイコンガスメータの取扱説明書の手順に従ってガスを復帰させてください。





## 補足ガイド

### 1 安全上のご注意

- 警告** この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
- 注意** この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、及び物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
- 一般的に禁止 分解禁止 必ず行う

### 注意

- お客様にYSC-29A、YSC-29Bを安全に正しくご使用いただくために、本書をよくお読みになり、指定された工事を行ってください。
- 工事終了後に、表面の設置ガイド「9. 運動点検」に基づく点検を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。
- 工事終了後に「11. お客様への説明」に基づいて、必ずお客様への説明を行ってください。
- 電池交換が必要な場合があります。安全に電池交換ができる場所に取付けてください。
- 絶対に分解改造しないでください。また落下等の強い衝撃を与えないように、取扱いには注意してください。**故障の原因となります。**
- はなれ家等の隣家との連動を行うなかまうちシステムを使用される場合には、連動の内容、連動する隣家名について事前に説明を行い、お客様相互の了解を得てください。

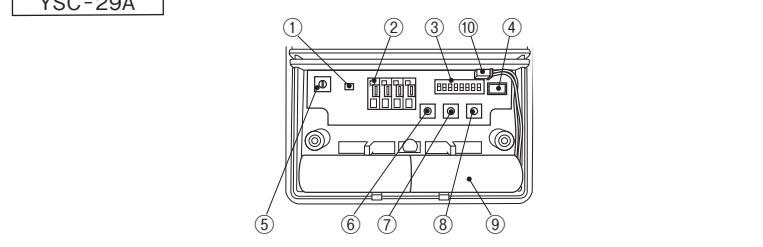
### お願い

- 本装置は電波を利用している関係上、外乱や電波環境の変化により通信が失敗する恐れがあります。

### 2 接続機器

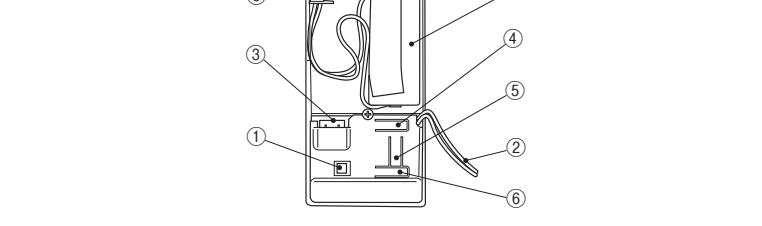
型式	接続、運動機器
YSC-29A	<ul style="list-style-type: none"> <li>E型保安ガスメータ</li> <li>S型保安ガスメータ</li> <li>ガス漏れ無線ユニット (YSC-29B)</li> <li>火災無線ユニット (YSC-26(O)/(K))</li> </ul>
YSC-29B	<p>&lt; LP ガス漏れ警報器 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>YF-434E ・ YF-437E ・ YF-439 (*1)</li> <li>その他、無電圧出力タイプで、出力遅延時間が38秒以下のものに限る。(*2)</li> </ul> <p>*1: コンセント抜けにより、マイコンガスメータが遮断します。(マイコンガスメータのコンセント抜け表示は行われません)</p> <p>*2: 出力遅延が38秒を超える警報器を接続して運用した場合、高圧ガス保安協会の検定対象外のシステムとなります。</p> <p>&lt; CO 警報器 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>YP-210</li> <li>その他無電圧出力タイプ</li> <li>YP-215等の有電圧出力タイプの警報器を接続する場合には、信号変換器 (YSC-09) が必要です。</li> </ul>

### 3 各部の名称とはたらき



- 警報ランプ 各種動作状態の表示、及び故障表示を行います。
- 外部出力端子台 マイコンガスメータや伝送用コントローラー (NCU) 等を接続します。
- 出力設定スイッチ 外部出力の出力条件を設定します。
- 電池接続用コネクタ 電池コネクタ⑩を接続します。
- 地区コード設定スイッチ なかまうちシステムの地区コード設定、及び通信チャンネルの設定を行います。
- リセットスイッチ 無線ユニットの動作を初期化します。緑組情報の消去は行われません。
- 緑組スイッチ 緑組に使用します。
- 点検スイッチ 無線通信点検の際に使用します。
- 電池
- 電池コネクタ 電池接続用コネクタ④に接続します。

### YSC-29B



- 警報ランプ 各種動作状態の表示、及び故障表示を行います。
- 警報器接続用ケーブル ガス漏れ警報器を接続するケーブルです。
- 電池接続用コネクタ 電池コネクタ⑧を接続します。
- リセットスイッチ 無線ユニットの動作を初期化します。緑組情報の消去は行われません。
- 緑組スイッチ 緑組に使用します。
- 点検スイッチ 無線通信点検の際に使用します。
- 電池
- 電池コネクタ 電池接続用コネクタ③に接続します。

### 4 通信チャンネルの設定 (YSC-29Aのみ)

近隣で無線システムが使用されている場合のみ本操作が必要です。設置場所の周囲の電波状況 (通信チャンネル使用状況) を確認し、必要に応じて通信チャンネルを変更してください。

本製品は、2チャンネル〜6チャンネルの間で変更が可能です。工場出荷状態においては、通信チャンネルは6チャンネルに設定されています。

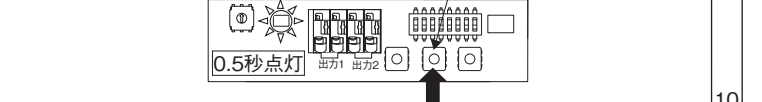
### 注意

近隣で無線システムが使用されている場合、そのシステムとは異なる通信チャンネルを使用してください。同じ通信チャンネルを使用すると、相互の電波の影響により、電池の消耗が早く進んでしまう恐れがあります。

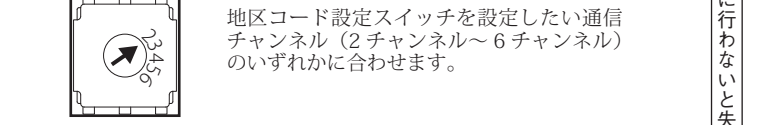
### 手順1 地区コード設定スイッチを、「E」に合わせます。



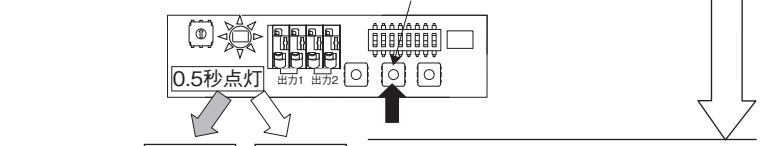
### 手順2 緑組スイッチを押します。



### 手順3 地区コード設定スイッチを設定したい通信チャンネルに合わせます。



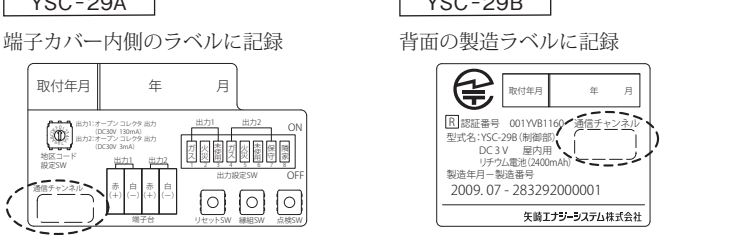
### 手順4 再度緑組スイッチを押します。



- 緑組スイッチを押してから10秒以内に操作しましたか?
  - 通信チャンネルを2〜6以外に設定しようとしていませんか?
- 手順1からやり直してください。

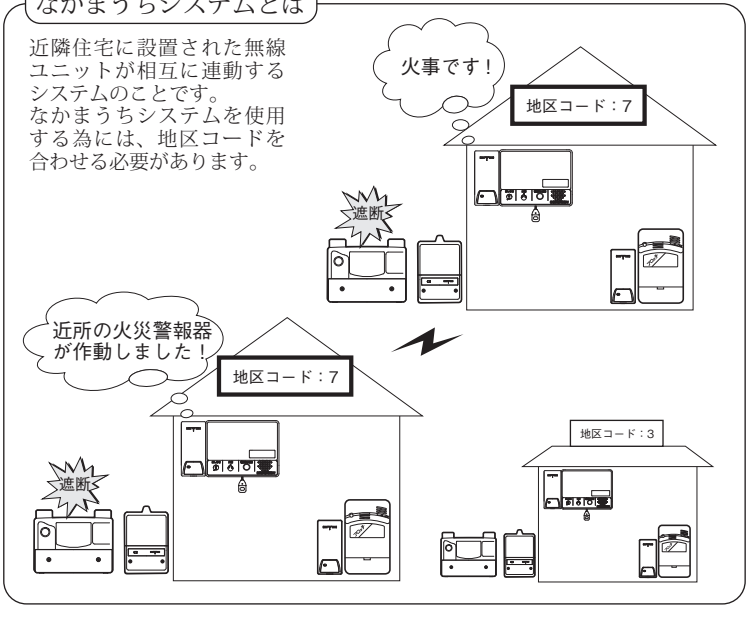
### 手順5 チャンネルの記録

チャンネルを変更した場合には、下記の位置に記録しておいてください。

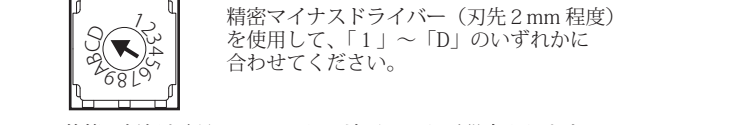


### 5 地区コードの設定 (YSC-29Aのみ)

なかまうちシステムを使用する場合のみ本操作が必要です。



### 地区コード設定スイッチを設定したい地区コードに合わせます。



※この状態で緑組を行うことにより、地区コードが設定されます。

### 6 緑組パターン

無線通信による連動を行うためには、事前に緑組作業を行う必要があります。緑組には下記のパターンがあります。

No.	連動内容	親機	子機
1	ガスもれ警報連動遮断	YSC-29A	YSC-29B 1台のみ
2	火災警報連動遮断-1	YSC-29A	YSC-26(K) 5台まで
3	火災警報連動遮断-2	YSC-26(O)	YSC-29A 台数制限無し
4	複数 YSC-29A による連動 (複数のマイコンガスメータと連動させたい場合等)	YSC-29A	YSC-29A 台数制限無し

### YSC-29Aを子機にするには

YSC-29Aは工場出荷状態では親機設定となっています。No.3.4の場合、YSC-29Aを子機にする必要があります。子機にする為には、地区コード設定スイッチを「F」にしてください。

### 注意

- 設置宅のシステムと近隣宅システム間での緑組は行わないでください。運動が正常に行われなくなります。
  - 通信チャンネルの変更を実施する場合は、通信チャンネル変更後に必ず緑組を再度実施してください。
  - 緑組を実施しないと、親機と子機の通信チャンネルが不一致となり、親機と子機間の無線通信ができなくなります。
  - 地区コードの変更を実施する場合は、地区コード設定スイッチ変更後に必ず緑組を再度実施してください。
- スイッチを変更しただけでは、設定値の変更が行われません。

### 7 取付場所

取付作業及び維持管理上、支障のない壁面に取付けてください。また、下記に示す取付禁止場所へは取付けないでください。

### 注意

- YSC-29A、YSC-29B 共通項目**
- 強い電界・磁界を発生する機器や電波を利用した機器 (下記参照) の近く。また、金属製の遮蔽物の近く。**誤動作の原因となることや、電池の消耗が早く進んでしまう恐れがあります。**
  - なお、工事終了後に行う運動点検の際には、これらの機器を動作状態にした上で点検を行い、相互に誤動作が無いことを確認してください。
  - テレビやラジオ
  - アマチュア無線、パーソナル無線、CB無線等のアンテナ
  - コードレス電話 等
  - 備品のかけになる場所
  - ※電池電圧低下表示が容易に確認できる場所に取付けてください。
  - 燃焼器具などからの排気、湯気、油煙などが直接かかること。
  - 電池交換、各点検が安全に行えないような場所。(高所等)
  - 直射日光が長時間当たる場所。

### YSC-29A

- 取付場所の温度が-10℃を下まわる、または50℃をこえる場所
- ※冬などに冷えて-10℃を下まわると、新しい電池でも電池電圧が低下して電圧低下の表示を行うことがあります。
- 長時間または常に水がかかるところ。

### YSC-29B

- 屋外
- ※屋内専用です。
- 取付場所の温度が0℃を下まわる、または40℃をこえる場所
- ※冬などに冷えて0℃を下まわると、新しい電池でも電池電圧が低下して電池電圧低下の表示を行うことがあります。
- 浴室など水や蒸気のかかる場所や水滴のつくところ。

### 8 結線時の注意事項 (YSC-29Aのみ)

#### 注意

- ①配線穴から電線を引き込んでください。
  - 電線はシースで覆われた電線をご使用ください。
  - 本体への電線の引き込みは、必ずシースまで引き込んでください。
- ②配線後、配線穴の内側からコーキング剤を充填してください。
  - コーキング剤を充填しませんが、雨水や虫が入り、故障の原因となります。
  - コーキング剤は、信越シリコン KE441T をご使用ください。
  - コーキング剤で、配線穴と配線の隙間を完全に埋めてください。

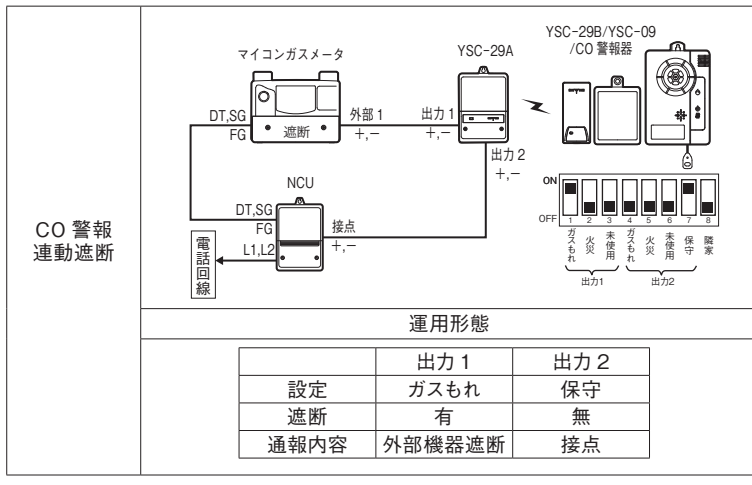
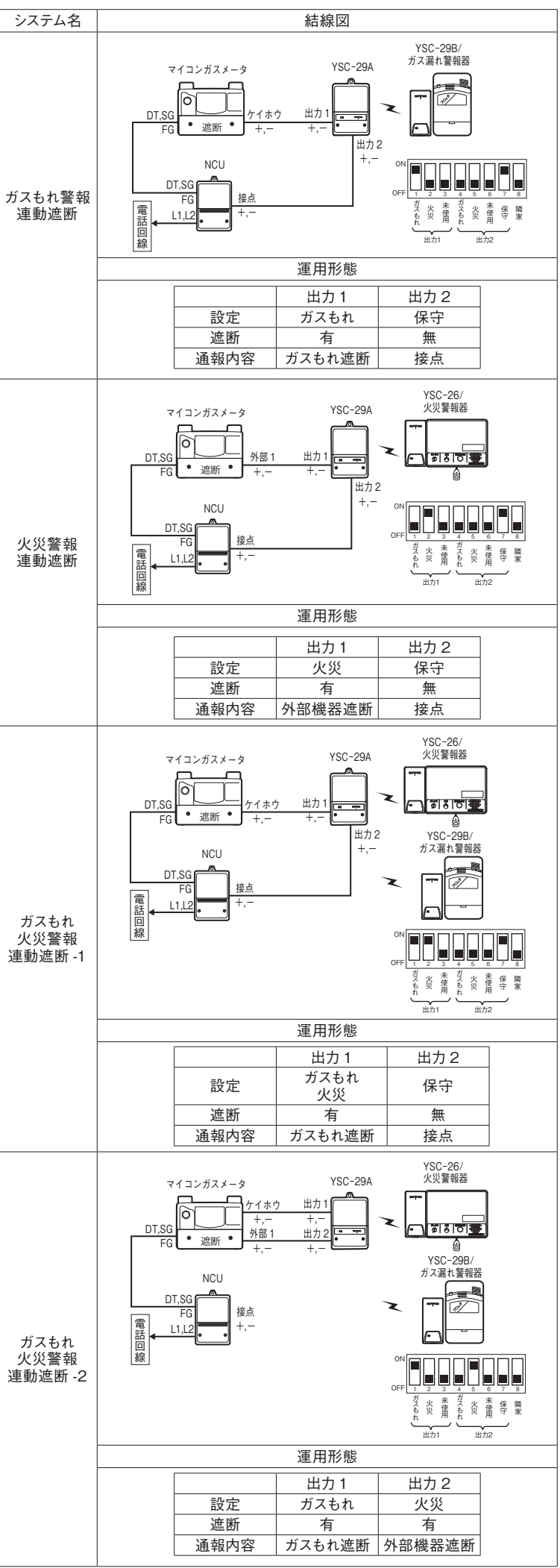
#### <端子台への接続手順>

1. 電線を約10mm (端子台側面のストリップゲージを利用して) 剥き出し、差し込み口にあります。
2. マイナスドライバー (刃先4.5mm以内) またはプラスドライバーを図の様にセットし、矢印方向に押しながら電線を差し込みます。
3. マイナスドライバーまたは、プラスドライバーを外すと接続は完了です。
4. 電線の取り外しは、マイナスドライバーまたは、プラスドライバーを矢印方向に押しながら電線を引けば外せます。

### 注意

刃先4.5mmを超えるマイナスドライバーのご使用および、ドライバーを斜めに押しながらの接続は、ドライバーが滑り、電子部品を破壊する恐れがありますので行わないでください。電線を軽く引いて、確実に接続されていることを確認してください。

### 9 システム別結線図



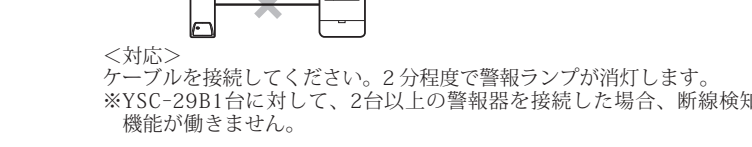
### 10 異常表示と対処方法

YSC-29AはYSC-29Bとの無線状態を定期的に確認しています。また、YSC-29Bは警報器との接続状態及び内部回路の状態を監視しています。異常を検出した場合には、マイコンガスメータを遮断すると共に、警報ランプが10秒周期で2回点滅します。覚えのない遮断が発生したり、警報ランプが点滅している場合は、以下の内容を確認してください。

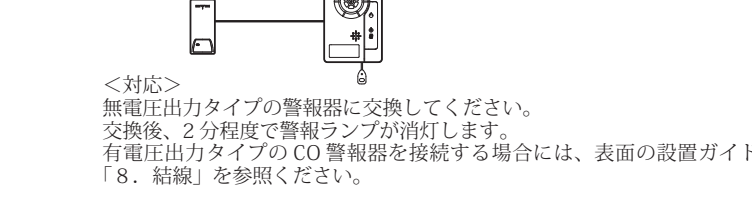
※異常検出により、マイコンガスメータが遮断した場合には、5分以上経過後に、マイコンガスメータの取扱説明書の手順に従って、ガスを復帰させてください。

機種	警報ランプ表示	異常内容	遮断有無	対処方法
YSC-29A	※ ※ ※ (10秒)	電池電圧低下	無し	電池を交換してください。
YSC-29B	※ ※ ※ (10秒)	電池電圧低下	無し	電池を交換してください。
YSC-29A	※ ※ ※ (10秒)	無線通信異常	有り	①設置環境を見直してください。 ②YSC-29Bのリセットスイッチを押してください。 ③約1分後にYSC-29Aの点滅が停止することを確認してください。点滅が停止しない場合は、再度①からやり直してください。
YSC-29B	※ ※ ※ (10秒)	電池電圧低下	無し	電池を交換してください。
YSC-29B	※ ※ ※ (10秒)	断線等	有り	下記の対処を実施してください。

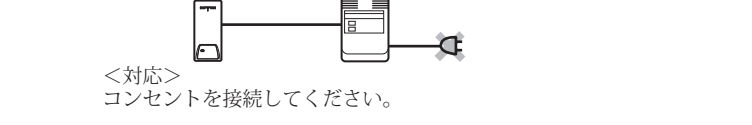
#### ●警報器接続用ケーブルが断線していませんか?



#### ●有電圧出力タイプの警報器を直接接続していませんか?



#### ●警報ランプは点滅していないが、覚えのない遮断が発生する…警報器のコンセントが抜けていませんか?



●いずれにも該当しない場合や対応を施しても復旧しない場合、機器の故障が考えられます。各地域の矢崎総業株式会社へご相談ください。

### 11 お客様への説明

取付、各点検が終わったら、お客様に以下の説明を行い、ご理解を得てください。

- ①異常表示の説明 (電池電圧低下時、異常時の警報ランプ動作)
- ②取扱説明書に基づく日常点検実施周期、方法の説明。
- ③保証書及び取扱説明書の保管のお願い。
- ④保証期間：1年
- ⑤無線ユニットの移設禁止
- ⑥無線ユニットの分解禁止
- ⑦引越し時の処置
- ⑧異常発生時にはガスを遮断すること。及び、その場合の復帰方法。(遮断後5分間は復帰できない)
- ⑨故障・異常時の連絡先
- ⑩電池の低下につながりますので通常使用以外のことは絶対しないように説明してください。
- ⑪YF-439の場合、コンセント抜けによりマイコンガスメータが遮断すること。
- ⑫なかまうちシステムを利用する場合には、連動の内容及び連動先名。

### 12 定期点検の実施

表面の設置ガイド「9. 運動点検」に基づく点検を1年に1回実施してください。

### 13 電池の交換方法

電池寿命は、通常の使用状態で約10年ですが、使用条件、使用環境によっては早く電池がなくなってしまうことがあります。電池電圧低下表示した場合には、速やかに電池を交換してください。

- 電池交換手順**
- ①古い電池を取り外してください。
  - ②リセットスイッチを押した状態で新しい電池のコネクタを差し込んでください。
  - ③リセットスイッチを離してください。この時、警報ランプが約1秒間点灯することを確認してください。
  - ④電池を交換した後は、表面の設置ガイド「9. 運動点検」に基づく点検を必ず実施してください。
- ※正常に作動しなかった場合、電池コネクタがしっかりと入っていないことが考えられます。電池コネクタを引き抜き②からやり直してください。
- ※一度緑組してある無線ユニットは、電池を交換しても再度緑組する必要はありませんが、②において、リセットスイッチを押さずに、電池コネクタを差し込むと、ごく稀に緑組情報が消去されてしまう場合があります。

- 使用済み電池廃却方法について
- リチウム電池は一般の不燃ゴミとして捨ててよいことになっています。ただし自治体によって処理、処分の方が異なっていますので、その指示に従ってください。なお、リチウム電池を捨てる場合は、他の金属と接触すると発熱、破裂、発火することがありますので、必ず端子部分を粘着性の絶縁テープなどで覆ってください。

### 警告

リチウム電池の廃棄を誤ると、ショートして発熱・破裂・発火することがあり、ケガをきたり火災に至る恐れがあります。

## 矢崎エナジーシステム株式会社

お客様ご相談窓口		
ガス機器事業部		053(925)4511
[北海道]	札幌	011(852)2914
[東北]	仙台	022(284)9114
[関東]	東京	03(5782)2702
	埼玉	048(654)2071
[中部]	名古屋	052(769)1532
	静岡	054(283)1151
[関西]	大阪	06(6458)8185
[中国]	広島	082(568)7802
[四国]	高松	087(833)3335
[九州]	福岡	092(411)4834

※機器に異常がある場合は、ご自分で修理なさらずに販売店または、最寄りのお客様ご相談窓口にご相談ください。なお、当社ホームページにおいてのご案内を申し上げます。 URL: <http://www.yazaki-group.com>

※電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。